

「日本の未来への構造改革に挑む」

一億総活躍社会の実現という新しいテーマが走り始めている中で、安倍総理から同一労働同一賃金を進めていく旨の発言も出てきました。私はこの動きを予見していた訳ではありませんでしたが、少子高齢化が進む中で、将来労働力人口の減少によって、社会保障財政のみならず社会保障を支える労働力も深刻な不足となる事を危惧して、高齢者の働く場所を大量に確保すべく、初当選以来、関係各所に提言を続けてきて、ようやく政府がこの事に正面から取り組む姿勢を打ち出してくれた事に喜びを感じています。

日本は戦後から冷戦下における高度経済成長時代を経ながら、現在の労働構造や社会保障の構造を作ってきました。しかし時代は変わり、冷戦の終結、低成長時代、新興国の台頭とグローバル競争の激化、少子高齢化と、これまでと違った環境と世界や日本社会の構造変化によって、かつては上手くいっていた労働や社会保障の構造が適合出来ずに歪みが大きくなってきています。国民の暮らしを支える基本構造を変えなければもた

なくなってきたのです。少子化対策も含め、これまでの対策はパッチワーク的なツギハギの対症療法でしかなく、はかばかしい成果をあげることが出来ずにいます。また、こちらを立てればあちらが立たずというような、利害のせめぎ合いで膠着してしまい、問題だとわかっていながら、誰も解決出来ずにきました。

これは構造の問題ですから、社会構造全体をデザインし直して、そのあるべきデザインに向けて段階的で一貫性のある改革を進めなければ解決出来ないと思います。幾つかの勉強会を立ち上げながら、これまで私は提言を続けてきました。そこで纏め上げた提言を軸に、このたび書籍を発刊することになりました。題して「政治主導で挑む労働の構造改革」です。日経BPP社から来月上旬に発売予定です。元厚生労働大臣の川崎二郎先生との共著という形で出版します。日経BPPの未来研究所という社内チームの方々から、高い関心をいただいで、慶應大学の清家篤塾長等の専門家達にもご寄稿いただいた270ページ程のかなり専門

的な内容の本なので、一般向けではないかも知れませんが、政治や行政の実務に携わる方々や経済界、労働組合の指導者の方々にも是非読んでいただき、これからの日本が向かうべき社会のあり方について考えて頂ければと願っています。様々な立場の方々の利害が対立して膠着している問題だからこそ、政治がその対立を調停し、リーダーシップを取って進めて行かねばならない問題だと思っています。同一労働同一賃金の問題も正規雇用、非正規雇用の不合理な格差を是正する為の問題であり、今、自民党内でも議論を進めており、私も現場を持つ専門家の一人として議論をリードしています。

働の在り方の良い部分を残しながら、不合理や不公平を段階的に是正していくことが大切だと考えています。また、参議院選挙に向けた自民党の政権公約にも、私の主張してきたものが4項目も採用していただけたので、これまで以上に党として、この問題に踏み込んで行ける環境が整ってきた事を嬉しく思っています。

初当選からずっとこの問題の専門家として推進してきた者として、これからますます努力して、日本の未来の見通しを皆様にお示し出来るよう頑張ります。

同一労働同一賃金の理念が問題にする格差は、同一企業グループ内の正規・非正規の格差、元請け・下請けの格差、地域間賃金格差、雇用者と個人請負の格差等、多様な格差が存在します。これを総て欧米型の仕組みに変えることは、社会を大混乱に陥れるでしょうし、それが日本の競争力や成長の為にならない部分もあります。日本の雇用や労

Facebook でも活動報告を行っています。〈Facebook アドレス〉 <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください! お待ちしています。

